

## fib 2002 大阪コンGRESの開会式 について



池 田 尚 治\*

6年以上もかけて準備をして開催した第1回のfibコンGRESである大阪コンGRESが盛大に実施されたことは誠によろこばしいことで関係各位の御努力と御支援とに心から敬意を表します。

ところで、このような大規模な国際会議を企画するにあたり開会式をどのような形で実施するかは最大関心事のひとつであります。種々の国際会議が日常各地で行われておりますが、規模の小さいシンポジウムやワークショップでは主催者による開会のスピーチのみで済まされることもあります。

しかし、ある程度の規模になると市長の歓迎スピーチや大臣の特別スピーチなどがあつたり、地元音楽家の演奏がある場合もあります。1994年のFIPブリスベンシンポジウムではオーストラリアの原住民であるアボリジニの笛の演奏、1997年のFIPヨハネスブルクシンポジウムでは南アフリカ元大統領デクレアル氏の特別講演、1998年のFIPアムステルダムコンGRESでは市長と交通大臣による歓迎スピーチなどが強く印象に残っています。

開会式はやはり一つの儀式であつて、その国際会議の性格を表すことにもなるので企画する側としては多くの自由度の中から独自のものを設定しなければなりません。そこで主催者としては過去の国際会議における例を参考にしながらもっとも適していると思われる案を考えることとなります。

大阪コンGRESの場合には、会場の大ホールのステージが立派であることから大人数の音楽演奏が適していると考えられ、地元の大阪大学の学生オーケストラの演奏による開幕をまず考えてみました。曲目は当初日本のさくらさくら、ワグナーのマイスタージンガーおよびヴェルディーのアイダの3曲を考えましたが、オーケストラと相談の結果、さくらさくらは開会前のバックグラウンド音楽（録音）とし、開幕時にはモーツアルトの

アイネクライネナハトムジーク、閉幕前にマイスタージンガーとエルガーの威風堂々を演奏することとしました。アイダは閉幕後のバックグラウンド音楽（録音）となりました。

開会式の式次第としてはまず山崎実行委員長が司会者である魚本東大教授を紹介することで始まり、組織委員長の開会挨拶と開会宣言、fib会長の開会挨拶に続いて国土交通大臣、大阪府知事および大阪市長の歓迎挨拶を頂きました。次に、登壇者の紹介があつてからフレッシュメダルの贈呈と名誉会員推挙の報告がパワーポイントによってfib会長より実施されました。この後にオーケストラによる前述のマイスタージンガーの演奏へと続きました。

大臣等の歓迎の挨拶は日本語で行われるとのことでしたので同時にスクリーンで英語の文章を映すことに致しました。大臣等は丁度体育の日と重なつたため公務多忙で代理出席となりましたがわが国の国土交通大臣や府知事が女性であることを海外からの出席者に知って頂くことができました。また、登壇者としては元ACI会長のJames Jirsa教授、IABSE会長の伊藤学教授、IASS会長の川口衛教授、日本道路公団総裁、阪神高速道路公団理事長、本州四国連絡橋公団総裁、首都高速道路公団理事長、国土交通省近畿地方整備局長、土木学会会長、建築学会副会長などの方々をお願い致しました。

開会式は以上のような式次第により1000人以上の参加者を得てきわめて格調高く盛大に実施できたのです。

開会式の終了後には小休止の後に4題の基調講演、すなわち、古代建築から未来建築までを述べた伊藤重剛博士、設計哲学を述べたミシェル・ヴィロージュ博士、建設技術の真髄を述べたチャールズ・ドラム教授および照明技術の本質を述べた

\* Shoji IKEDA : fib 2002 大阪コンGRES組織委員長, (株)コンクリート複合構造研究機構代表取締役, 横浜国立大学名誉教授

石井幹子女史の熱の込められた講演へと続きました。

組織委員長としては開会式については相当に気合いを入れて望みましたがほぼ思いどおり実施できたことを心より喜んでおります。ここでは開会式で述べた組織委員長の挨拶と宣言文を載せさせていただきます。

現在は 21 世紀の社会基盤の建設と保全のスタートの時であり、まさに kongress の開会式と同じ位置付けにあると考えられます。開会式におけるような爽やかな緊張感をもってこれからの 21 世紀の社会基盤をプレストレスの活用によって大いに発展させようではありませんか。

組織委員長の開会挨拶と開会宣言文

Our distinguished and eminent guests such as  
Minister, Governor and Mayor,  
Ladies and Gentlemen,

Very good morning, お早うございます。

On behalf of the Organizing Committee, I would like to express my sincere gratitude to you to participate, support or sponsor this first fib Congress 2002 Osaka.

I am very pleased to tell you that the number of participants has become 1,600 including accompanying persons from 56 nations.

Other than these, more than one thousand people will come to the Exhibition.

Therefore, the total number of the attendees will be 3,000.

In this Congress, we have 670 contributed papers, which include keynote papers and 14 plenary or primary papers.

The theme of the Congress is "Concrete Structures in the 21st Century". This means that the infrastructures of the world in upcoming 100 years will be based on this Congress, because the concrete is crucial component of the infrastructures.

I believe that the significance of this Congress is great for the development of future society and environment.

Let's construct sustainable artificial environment with concrete in the logical and ethical manner by utilizing the knowledge obtained in this Congress.

I am confident that you will be involved in the most recent technological achievements of structural concrete in this Congress.

Now, on behalf of the Organizing Committee of the first fib Congress 2002 Osaka, I declare the opening of the Congress with ringing the traditional Bell succeeded from FIP. ("Ting")

Thank you for your kind attention.



写真 開会式における大阪大学交響楽団の演奏